

## カナダ Pearson College UWC 寺田朋笑

留学期間：R5.8～R7.5（2学年間）

カナダのバンクーバー島にある Pearson College UWC での生活が始まって、一年半が経ちました。誰の名前も顔も知らない世界に飛び込んで生活を始めた昨年と、半分は面識のある人がいるコミュニティでの生活を再度始めた今年では、日々の生活や人間関係、私自身の意識に様々な違いがありました。

まず、友達の文化やバックグラウンドについて話す機会が増えました。私の英語のレベルの変化の影響も少なからずはありますが、昨年一年を通して出来上がった信頼関係のお陰で、学期の始めから友達と込み入った話がしやすかったです。アフガニスタンの友達から彼女が母国で経験したことを聞いたり、中国の友達と南京事件について話したりしたことが、特に印象に残っています。

また、自分の周りで起こっていることを客観視できるようになりました。昨年は、留学生活すべて夢のようで、ポジティブな面にばかりに目を向けている自分でしたが、この半年はカレッジで起こっている改善が必要な面を理解し、自分なりにその問題に対して解決策を考えたり、友達と議論しあったりしました。例えば、カフェテリアで提供される皿を、生徒が自分の寮に持って行ったままにし、カフェテリアで皿が不足するという問題に対して、food committee という委員会のメンバーと週に一回、各寮に皿の量を確認しに行くことを通してこの問題解決を試みました。また、友達や寮母と、寮の共同キッチンをきれいに保つ方法について話し合ったことも多々ありました。このように、二年間留学するからこそ得られた経験や学びに、この半年の生活で気づくことができました。

学業面に重きを置いて話すと、この半年は、テストやエッセイ、大学の出願などで今までにない多忙な期間になりました。アメリカやカナダでは、クラス内での態度や学校で行われるテストから出された predicted grades というものを使って大学に申し込みます。そのため、日々の授業やテスト、課題の質が重要であり、多くの時間をテスト勉強やエッセイの執筆に費やしました。学校全体を通して、皆が勉強一色に染まってしまい、クラスの中で、Pearson College UWC に来た目的、UWC でしかできない経験と IB のカリキュラムのバランスのとり方などを話し合ったこともありました。個人的にも、勉強と娯楽のバランスの取り方に悩んだこともありました。そんな中、この二つのけじめをつけるために始めたことが、寮のキッチンでの料理です。週に一回の頻度で行ったこの習慣は、on/off の切り替えだけでなく、一年生や、昨年そこまでよく知り合わなかった同級生との仲を深めることも可能にしてくれました。寮のキッチンで料理をしていると、多くの友達が集まってきます。そして、作ったものをシェアしたら、その子の母国にある似たような料理、料理のレシピといった話に広がり、今まであまり話したことがなかった友達とも話すきっかけを作ることができました。この経験を通して、私なりの人との縁の広げ方を学ぶことができました。

最後になりましたが、多様性あふれる素敵な友達に囲まれて学びを深められているのも、ふるさと納税で支援してくださっている方々のお陰です。IB の最終テストに向けて勉強を頑張りながら、友達や先生と過ごす時間を最大限に増やして充実した半年にしていこうと思いますので、応援のほど、よろしく願いいたします。



House Olympic (寮対抗の体育祭)後に寮の仲間と撮った記念写真



アジアのみんなとの写真撮影



湖でカヤックが転覆した時のレスキュー方法を学んだ時の様子



ヨーロッパの cultural sharing day の様子



物理のクラスで静電気の実験をしている時の様子



寮の仲間とキャンプに行った時の様子



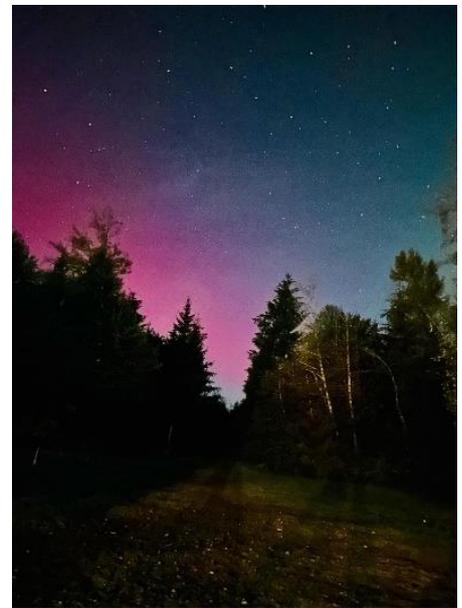
近くの村に、畑仕事の手伝いに行った時の様子



マリンサイエンスのクラスで、海藻の実験を行っている時の様子



クリスマスコンサートでの合唱パフォーマンス



バンクーバー島で見られた2度目のオーロラ



友達と作った料理の例